

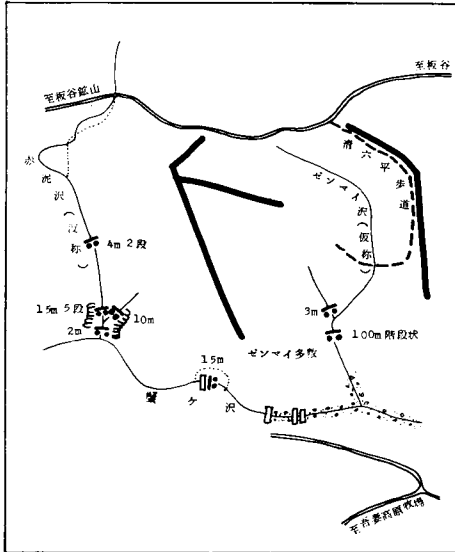
ゼンマイ沢

(仮称・下降)

一九八〇年五月二十五日

◆天気(曇時々晴)

清六平歩道を出合まで歩いて下り始める。しばらく下った所で、右岸から三ツ川の滝となって支流が入り、この下には一〇〇メートルの滝が階段状に続いていた。少し下ったが傾斜がきつくなり途中でワラジをはく。この後は滝も



ゼンマイ沢、赤泥沢 (作図: 5)

なく蟹ヶ沢本流に着く。

この沢はゼンマイが多数生えていた。ゼンマイ沢と仮称することにする。(記・)

(タイム)

清六平歩道入口一・二二一五―ゼンマイ沢一二三〇―蟹ヶ沢本流一三・四〇

天戸川

一九八〇年七月十三日

◆天気(晴)

前日の雨のため沢はかなりの増水である。林道を徳沢との二俣まで歩き、身仕度を整え遡行を始める。

砂防ダムを二つ左岸を捲いて少し歩くとゴルジュになる。まず右岸をへつり、左岸に渡ってへつる。この時喜吉君が足をすべらせて水の中へ。このゴルジュのすぐ上にも砂防八段があった。左岸を捲く。

しばらく歩くと砂防ダムが二つ続いていて、左岸ぞいに石積みめの堤があった。この先にもまた砂防ダムが二つ続く。下のダム五段は左岸側にはしごがあり、上のダム